

石巻市での医療支援活動 ～東日本大震災の爪痕～

離島へき地医療人育成センター

大脇哲洋

鹿児島大学は、東北大学からの依頼を受け、3月26日から当面4月30日まで、東日本大震災の医療支援として、医師3名(内科・精神科・外科)・薬剤師1名・看護師2名・主事2名の1チーム8名からなる医療支援チームをそれぞれ4泊5日の行程で12チーム連続して派遣することになった。

私は第3チームの外科医として、3月31日から4月4日まで派遣されることになった。鹿児島大学チームの派遣地は石巻市であり、石巻赤十字病院が管理する災害派遣調整グループに所属し、全体の中で決められたミッションを行うのが任務である。第3チームは、医師が神経内科教授の高嶋博先生、精神科助教の楠本明先生と私、薬剤師として牛ノ浜風見先生、看護師として窪田美行さん・前野さとみさん、主事として鮫島さん・梶原さんのメンバー構成であった。

石巻へは、鹿児島→大阪伊丹→山形空港、そしてレンタカーで仙台市を經由して入った。高速道路は、いたるところで段差ができていたが、移動は可能であった。水は出ていなかったが、松島市のペンションを予約でき、そこを宿泊として活動した。

初日は石巻赤十字病院の院内救急外来を担当した。病院は免震構造であり、建物の被害は無かったが、周囲は15-30cm程沈降していた。石巻赤十字病院は、宮城県北部から岩手県南部の海岸地域で唯一稼



第3チーム。上段左から 楠本助教、大脇、高嶋教授、牛ノ浜先生。下段左から 窪田さん、前野さん、鮫島さん、梶原さん。



朝霧に煙る石巻赤十字病院



高知赤十字病院チーム、東大チームと院内支援(救急活動)

働可能な病院であり、地震発生当初は 200 - 300 台の救急車（全国から救急隊・救急車が派遣されている）の対応がなされていたらしいが、4 月 1 日時点では、かなり落ち着いてきた様子で、午前 9 時から午後 5 時までで、30 台程度の受け入れ状況であった（午後 5 時以降はかなり来たらしい）。我々は高知赤十字病院チーム（外科 1 人 + 看護師 + 薬剤師 + 主事）、東大チーム（整形外科医師 1 人、内分泌内科医師 1 人）と共に仕事を行った。疾患としては、避難所での衰弱、脱水、下痢、気管支炎、肺炎、外傷などであったが、基本的に重症でないと入院はできないため、できる限り元気にしてまた避難所へ返すことがほとんどであった。薬剤はふんだんにあり、困ることはなかった。

2 日目・3 日目のミッションは避難所での診療であった。疾患としては、やはり衰弱、気管支炎が主であり、内科・精神科の医師が主に仕事をし、外科医はあまり出る幕はなかった。内科・精神科の其々の診療に接し、専門性を主体にした診療の仕方、患者への接し方を見せていただいたのは非常に勉強になった。気管支炎は、津波で押し寄せたヘドロが乾燥し舞い上がることが原因ではないかと思われ、神経内科の高嶋教授は、一人ひとり、丁寧に患者を聴診し、限られた薬の中で（避難所の常備薬は種類

が限られている）苦心されていた。また、避難所の人々は 3 週間に及ぶ避難生活に疲れきっている様子で、精神科の楠本先生は

住民の訴えをよく聞き、睡眠導入薬内服の患者を中心に、今後も継続的に診ていくことができるように、データベースを作成した。薬剤師の牛ノ浜先生は、第 3 チームから薬剤師が加わったため、当面の薬剤整理に奮闘していた。仕事量は一番多かったかもしれない。



楠本医師 後ろは前野看護師



診察する高嶋教授



薬剤管理に没頭する牛ノ浜さん
寒い中頑張る主事の梶原さん

看護師の2人は、大学での看護管理業務とはかなり違う環境で、避難所の中での病气予防に関して、いろいろと知恵を絞っていた。体操などの気分転換の構想などを、地元の保健師と協議した。主事の2名は、運転・各種手配・患者カルテ作成と、多彩な慣れない業務を次々となし、チームとして活動する基盤となってくれた。一つの施設から、こうした状況の場所に、継続的に長期に派遣することの重要性が浮かび上がった。

地元の人たちに、是非被災地を見てくるように勧められ、2日目の昼の空いた時間に、石巻市街の住宅倒壊現場を視察した。土地は陥没し、マンホールが浮き出ている。がれきの中で多くの人々が復興に向けて活動していた。展望台からの被災地の様子は想像以上であり、日本全体での支援が必要であることを感じた。

多くの医療支援チームが活動する中、赤十字の訓練された仕事ぶりは際立っており、この経験から、鹿児島大学としても、救急支援体制の準備が必要であると痛感した。医療支援チーム以外に、自衛隊、ボランティアが幅広く力強く活動しており、今後長く続く復興達成への確信を持ちながら、今回の第3チームのミッションを終え、次の第4チームへ引き継いだ。今後もしろいろな形で、皆が心をつなげて手を差し伸べていかなければならない。チームの皆様に、改めて感謝と尊敬の気持ちを伝えて報告の終わりとする。



石巻市立病院周辺



石ノ森漫画館地区